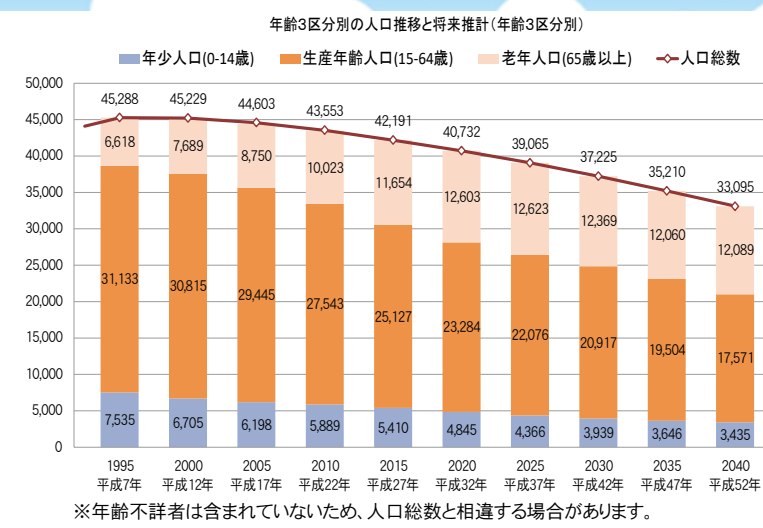


人口減少社会や 少子高齢化に 対応するための まちづくりを目指します



市の人口の推移

市の人口は2000年頃から減少へと転じ、2010年と比較して2040年には約24%減少し、65歳以上の高齢者は全体の3分の1を超える見通しとなります。



人口が減ることの影響

人口減少は、今後スーパーマーケットや診療所などの撤退、バスや鉄道の利用者が少なくなることで路線や本数の減少、市の税収が下がり行政サービスの低下につながるおそれがあります。快適な生活環境の確保と持続可能な都市運営のため、人口減少を見据えたコンパクトなまちづくりが必要です。

立地適正化計画の策定

都市のコンパクト化は、居住や都市機能の集積により、生活利便性の維持・向上、サービス産業の生産性向上による地域経済の活性化、行政サービスの効率化などを実現するための有効な政策といわれています。また、それと連携した公共交通ネットワークの構築を図り、コンパクトシティ・プラス・ネットワークに向けた取り組みを推進します。そのため市では、平成21年に策定したまちづくりの基本的な方針や地区ごとの整備方針などを定める「都市計画マスタープラン」の見直しを行うとともに、新規で「立地適正化計画」を策定します。

立地適正化計画は、市の特性を踏まえた上で、今後、居住を誘導し、人口減少下においても人口密度を維持する「居住誘導区域」や、商業・医療などの都市機能を誘導する「都市機能誘導区域」

まちづくりアンケート

結果概要のお知らせ

都市計画マスタープランの改定と立地適正化計画の策定に向けて、平成30年11月から12月にかけて市民アンケートを実施しました。回答にご協力いただき、ありがとうございました。

調査対象：市内在住の16歳以上
対象者数：3,000人(無作為)
調査方法：郵送による配付回収
回収率：40.5%(1,215票)

日用品の買い物先



最もよく行く日用品の買い物先は「市内」が71.7%、「土浦市」が18.6%であり、年齢層が上がるにつれて「市内」の割合が高くなる傾向にあります。最もよく行く店舗では、千代田地区に立地する店舗が多いものの、日常的に他市で買い物する傾向があります。

買い物先への移動手段

90.9%が「自家用車(家族などによる送迎を含む)」で、次いで「自転車」が3.9%でした。買い物先までの所要時間は「10〜20分」が32.4%と最も高く、買い物先の徒歩圏の許容範囲としては「5〜10分未満」が40.1%で最も高くなりました。

かかりつけの医療施設

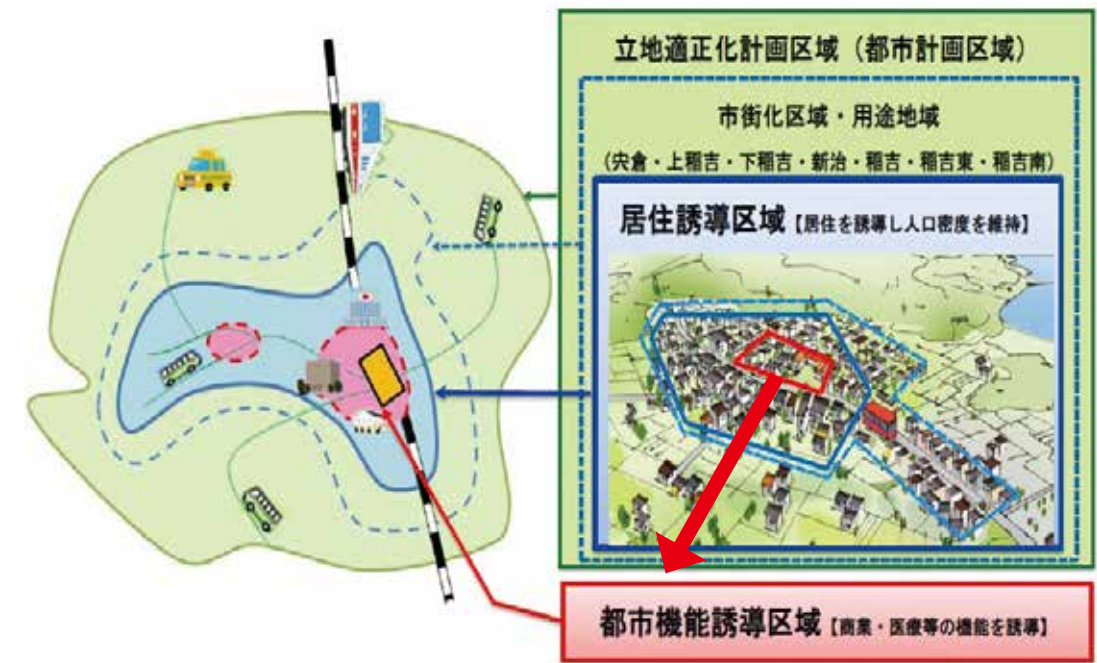
「土浦市」が51.1%で過半数、次いで「市内」が26.8%、「石岡市」が6.6%の順となっています。年齢層が上がるにつれて「市内」の割合が高くなる傾向にあります。

よく利用する公園

子育て世帯では、43.6%が公園を利用しています。また、市内の公園よりも市外の公園の利用割合の方が高く、緑の豊かさや遊具など、子どもが遊べる公園環境を重視している傾向があります。



立地適正化計画のイメージ



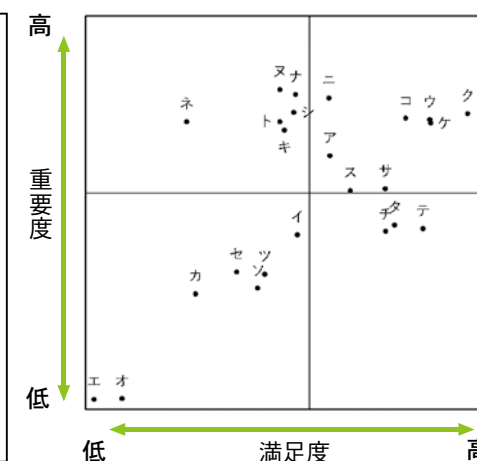
域」、さらには誘導するための施策などを設定・公表します。計画はおおむね20年後を見据えたものとし、令和2年度中の公表を目指しています。誘導区域外で誘導施設を建築するときなどは、届出を行う必要がありますので、計画の策定にあたり、十分な情報提供に努めてまいります。また、今

後のまちづくりの重要な位置付けとなる計画であることから、市民の皆さんと事業者の皆さんのご理解とご協力をいただきながら進めてまいります。なお、この計画は、長期的な視点に立つて、緩やかな誘導を図るものであり、強い規制をするものではありません。

居住誘導区域()の部分)は市街化区域の内側に、都市機能誘導区域()の部分)は居住誘導区域の内側に設定します。将来に渡って人口密度を維持し、公共施設やスーパーマーケット、診療所などがまとまって立地することで、高齢者や次世代を担う子どもたちが快適に生活できるまちを目指します。また、公共交通による中心拠点へのアクセスの構築を図ります。

生活環境の重要度・満足度

重要度が高く、満足度が低い重点改善項目には、「空き家などの管理および抑制対策」、「まちの防犯対策」、「交通安全対策」などの6項目が該当します。



- | | |
|------------------|--------------------|
| ア. 通勤・通学の便利さ | ス. 学校など教育施設の立地 |
| イ. 鉄道の利用しやすさ | セ. 図書館など文化施設の立地 |
| ウ. 自動車の利用しやすさ | ソ. 運動・スポーツ施設の立地 |
| エ. 路線バスの運行本数 | タ. 緑や水辺などの豊かな自然環境 |
| オ. 路線バスのルート | チ. 自然的景観の美しさ |
| カ. 広場や公園などの整備 | ツ. 街並み景観の美しさ |
| キ. 生活道路の整備 | テ. 宅地の広さやゆとり |
| ク. 上水道の整備 | ト. 騒音、悪臭などの公害対策 |
| ケ. 下水道の整備 | ナ. 交通安全対策 |
| コ. スーパーなど買い物先の立地 | ニ. 自然災害に対する防災対策 |
| サ. 役所など行政窓口の立地 | ヌ. まちの防犯対策 |
| シ. 病院など医療福祉施設の立地 | ネ. 空き家などの管理および抑制対策 |

徒歩圏で生活できる 居住環境整備がトッパ

高齢者や子育て世帯にとって、暮らしやすいまちであるために取り組むべき施策として「徒歩圏で生活できる居住環境の整備」が最も高く、次いで「公共交通の利便性向上」が挙げられました。



アンケート結果については、市民の皆さんの意向として「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を進める上で参考にさせていただきます。掲載している結果は一部のものになります。全体の結果や立地適正化計画の概要など、まちづくりに関する情報を提供しておりますので、詳しくは市ホームページをご覧ください。



問 都市整備課(霞ヶ浦庁舎)